

海上の森講座

海上の森から考える森林生態と種多様性維持（現地）

日時：平成27年7月18日（土） 10:00～15:00

講師：山本 進一（岡山大学副学長）

概況



科目名：海上の森講座

海上の森から考える、森林生態と種多様性維持（現地）

講師：岡山大学 副学長 山本進一

○第1時限 10時から12時

- ・採取されたアカマツの枝を用いてクロマツの違いの説明から講座は始められた。
- ・また、イチヨウを例に分類と学名の付け方等のルールについて解説がなされた。
- ・樹木の特性の説明として、世界一長寿の生物としてプリッスルコーン・パイン（樹木）を挙げられ4844年生きていること、世界一重い生物としてジャイアント・セコイア（樹木）を挙げられ2030トンであること、世界一背が高い生物としてコースト・レットウッド（樹木）を挙げられ112メートルであると紹介がなされた。樹木は、寿命が長く、材は重く、樹高は高いという特性を挙げられた。
- ・森林の定義、特に日本語では「森」と「林」という言葉が使われる。これは相観（見た目）から分けられ、一般には何となく大集団のものを森といい、小集団を林という言葉を使うこと、さらには学術用語や合成語ではほとんど「林」を使い、例としては人工林、原生林、天然林という言葉が紹介された。
- ・日本の主な照葉樹林として、やんばるの森、奈良県の春日山などの説明がなされた。

○第2時限 13時から15時

・台風11号の影響から午前中は雨模様であった。午後は雨上がりの合間に、吉田川沿いの樹木について現地で説明がなされた。

・主な説明樹木は、クリ、ネズミモチ、ヌルデ、アラカシ、スギ、ヒサカキ、アカメガシワ、ニワウルシ、クサギ、アセビ、エゴノキ、タカノツメ、クロモジ、ヤマハゼ、ネムノキ、ヒノキ、イヌツゲ、サカキ(出現順に記載)などであった。

○まとめにかえて、質問に答えられた。

Q海上の森では、シデコブシが衰退していると言われている。原因は遷移か、別の要因か。

A原因は、遷移にあると思われる。湿地周辺が常緑化すれば、衰退する。保全するには、常緑樹等の伐採が有効な1つの手法だろう。

Q海上の森で採取したシデコブシの挿し木苗を用いて、復活させるのは良くないことか。

A海上の森で採取されたものであれば、有効な手法の1つと考える。違う場所のものを用いると遺伝子の汚染が始まるので、注意が必要である。